

平成24年度・出前講義の紹介

技術委員長 新田 洋一

1. はじめに

東北地質調査業協会では、地域の地盤・地質に精通した技術者集団として様々な活動を行っています。その中の一つとして、技術委員会では外部への講習会へ講師の派遣等を担当しています。ここでは、平成24年度に仙台工業高校で地質調査に関する理解を深めてもらうために行った「出前講座」を紹介致します。

2. 講師派遣の内容

仙台工業高校からの依頼により、定時制課程と全日制課程の高校生を対象としてそれぞれ1回、計2回の講義と実習を行いました。

(1) 定時制課程

土木建築科の1学年14名と教員の方を対象に「ものづくり実践指導講座－地質調査の実際－」として平成24年6月19日17時30分から実施しました。

筆者は始めに、①「地質」って何、②岩石や土はどのようなもの、として地質の基礎について講義しました。その後、③東日本大震災はどのように起こったのか、④最近の地質調査の不足による工事現場での事故例として、水島コンビナートトンネル水没事故、南魚沼トンネル爆発事故を紹介し、地質調査の重要性をお話しました。また、⑤液状化はどのように起こるのかを紹介し、将来土木建築に携わるか自分の家を建てる時に注意しなければならない事をお話しました。

講義の後は、テクノ長谷株式会社のご協力により、ボーリング調査で得られたコア標本を実際に手で触れて、土や岩石の地盤がどのようなものを学びました。(ボーリングマシンを用いた調査の野外実習を予定していましたが、台風のため教室内での実習になりました。)



写真-1 早坂理事長のご挨拶



写真-2 講義の様子



写真-3 ボーリング調査実習



写真-4 ボーリングコア観察



写真-5 表面波探査実習

(2) 全日制課程

土木科の1学年25名と教員の方を対象に「地質調査講習会」として平成24年10月26日8時50分から実施しました。

講義は、定時制と同じ内容で筆者が行いました。実演として、グラウンドにて表面波探査とボーリング調査を行いました。表面波探査は応用地質株式会社、ボーリング調査はテクノ長谷株式会社が担当しました。

実際に測線の設定、ハンマーでの起振、得られたデータの確認、探査の原理や方法などを体験し学びました。ボーリング調査では実際にコア試料を採取し、コアの観察、現場記録写真の撮影などを体験しました。

3. おわりに

高校生への出前講義は地質調査業の認知度を上げるためや、地質調査の大切さを知ってもらうために毎年実施しています。出前講座の実施に当たりましては、会員企業各社のご協力が不可欠です。

震災復興業務多忙の中、テクノ長谷株式会社ならびに応用地質株式会社の講師の皆様、協会代表として挨拶を頂きました早坂理事長に厚く御礼を申し上げる次第であります。